



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「夏終わる夕焼け」 蜘蛛 康介

<会長の時間>

これは外科経験 5 年目の私と 3 年目の O 君と 1 年目の K 君との 3 人体制で、ある病院に勤務していた時の話です。ある土曜日の夕方、オートバイ事故を起こした若い男女が



救急車で運び込まれました。男性は意識がないので外科へ、女性は骨盤骨折がありそうなので整形へ移されました。男性の方は全ての検査が終わったのは午後 11 時ころでした。首から下には異常所見はなく、頭の中に血腫があることが判明しました。このころにはまだ CT が導入されていないので、脳の中の状態は詳しく分かりません。出血が続いているのか、止まっているのかも分かりません。いづれにしてもこのままでは、患者さんは植物人間になるか重い障害が残る可能性があります。手術をすればある程度障害が残るかもしれないが、100%回復する可能性はあります。このころ一般の病院にはまだ脳外科がなく外科医が脳の手術も行っていましたが、当院でも脳の手術はそれほど行われていませんでした。私は、上司の行う脳の手術に何例か助手として付いたことはありますが、私自身が執刀したことはありませんでした。O 君はその後、秋田県の国立脳専門病院で研修を受け、脳外科医として活躍することになるのですが、この時点ではまだ脳の手術の経験はありませんでした。

この状況で手術に踏み切るか中止するか。18 歳の男子の人生が私の決断にかかっています。経験した症例救が少ないし、手術の流れ、コツ、アクシデントへの対応がわからないので手術はできない。これは責任逃れになりますが、正当な理由にはなりません。どうすべきか決断に迷っているところへ、女性の患者は出血のコントロールができなくて救命できなかったという情報が伝わりました。決断を先延ばしにすることはできません。手術をすれば大きなリスクが伴います。リスクを理由にして逃げるかどうか。この場の責任者は私です。このような状況は起業の時、あるいは会社の存亡にかかわる決断を下す場合にあるかと思います。

いかなる状況にあっても、外科医の使命は人のため最善を尽くすことであるという原点に立ち返り、手術決行という決断を下しました。

手術開始したのは午前零時を過ぎていました。手術はアクシデントもなく順調に進み、血腫を摘出した後に出血もなく、無事終了しました。意識状態も翌日から一週間でほぼ完全に回復しました。後遺症もなく 2 週間くらいで退院しました。退院後一回も受診がないので異常がないのだろうとは思っていましたが、何年たっても気になって折にふれて思い出すことがありました。

ところが今年の冬、80 歳すぎのおばあさんが初めて診察に訪れ、30 年以上前のあの若者の事を話されお礼を言われました。私にはすぐにびんとわかりました。その後の事をいろいろ聞いてみたかったのですが、おばあさんの様子が幸せそうだったので何も訊ねませんでした。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・ガバナーノミニー決定のご連絡
- 石垣 智康(いしがき ともやす)氏
- 多治見 RC 所属



◎ガバナー、地区ロータリー財団委員長より

- ・第 2 回地区ロータリー財団研修セミナー参加出席要請のご案内
- 日 時 10 月 13 日(土) 13:00 開会 16:30 閉会
- 場 所 岐阜都ホテル
- 出席要請 財団委員長もしくは会長のいずれか 1 名

◎高山市社会福祉協議会より

- ・赤い羽根共同募金の街頭募金について(お願い)

日 時 10 月 1 日(月) 午前 10:00 から 11:30
集 合 総合福祉センター

◎ロータリーの友事務所より

- ・「ロータリーの友」英語版発行のお知らせ 11 月発行 1 冊 525 円

<例会変更>

加茂東 … 9 月 13 日(木)は、

ガバナー公式訪問 4 クラブ 合同例会のため

12 日(水)12:30~ シティホテル美濃加茂 に 変更

10 月 11 日(木)は、濃飛グループ IM のため

14 日(日) 水明館 に 変更

奉仕を通じて平和を

例会報告

10月25日(木)は、桜植樹後の手入れ作業のため

13:30～七宗町 ロッカガーデン 等に 変更

<受贈誌>

Rotary International(ロータリーリーダー9月号)、
(財)比国育英会バギオ基金(バギオだより No31,32)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	39名	9名	50名	50名	96.00%
本日	38名	—	38名	50名	76.00%

<本日のプログラム>お祝い

◎会員誕生日



田中 武 9・17 塚 和信 9. 15
当日欠席 … 村瀬 勝彦 9. 11、 洞口 良一 9. 14

◎夫人誕生日(当日、ご自宅に花束をお届け)

大村 貴之 真由美さん 9. 18
遠藤 隆浩 明日香さん 9. 24

◎結婚記念日(当日、ご自宅にお菓子をお届け)

蜘蛛 康介 H14. 9. 1

◎出席表彰

堀川 和士 6年



垣内 秀文 1年

◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

・大村 貴之 ・小田 博司 ・垣内 秀文 ・小林 勝一
・塚本 直人 ・新田 敬義 ・平 義孝 ・堀川 和士
・山藏 真輔 ・脇本 敏雄

インターアクト委員会 担当例会

インターアクト副委員長

垣内 秀文

本日はインターアクト委員会担当例会です。委員長の蜘蛛さんがお休みですので、副委員長の私から紹介させていただきます。



先日8月4～5日と鈴鹿市で行われました、インターアクト年次大会についての報告を飛騨高山高校インターアクトクラブ顧問の荒川先生から、そして韓国派遣されました、斎藤さん、山本さんから、その様子について報告させていただきます。



飛騨高山高等学校 インターアクトクラブ 部長 斎藤 花歩さん

はじめに、今年の韓国3600地区インターアクト訪問研修に団長として参加させて頂き、本当にありがとうございました。韓国と日本の習慣の違いを知るだけでなく、韓国の方の私たちに対する温かい対応を感じることができたこの5日間は、私を大きく成長させたと思います。このような経験ができたことに、とても感謝しています。

韓国での経験を通して印象的な事柄が2つあります。一つ目は、ホストファミリーの皆さんの心遣いです。どんな方が私を受け入れて下さるのか、ホームステイ先への期待と緊張でいっぱいだった私には、不安なことは何もありませんでした。そして、ホストファミリーの皆さんは、本当の家族のように明るくアットホームな雰囲気私を迎えて下さいました。スケジュールを意識しなければならぬ私を、いつもサポートして下さいましたことは本当にありがたいことでした。その気配りのおかげでホームステイの間、私は安心して過ごすことができました。

二つ目は、年次大会です。最初は日本の年次大会と同じく粛々と進みましたが、その後の内容は、まるでライブイベントのようでした。

奉仕を通じて平和を

例会報告

た。韓国のインターアクターのダンスや歌、パフォーマンスが次々と賑やかに発表されました。ここで、私が最も驚いたのは、ムードを支えている演出です。ライブさながらの本格的なライトアップに音響設備、さらにステージ上の炎の演出、ダイナミックに一体感を感じることができる、そんなムードを作り出す設備が用意されていました。もちろん、その裏には多くの人の支えがありました。そんな中、私たち日本のインターアクター23人も3曲のダンスを披露しました。発表までには、係が私たちのダンスのCDを忘れるというアクシデントもありましたが、さまざまな人の協力を得て乗り越えることができました。そんな出来事があった後の年次大会、私たちのダンス、そして心から盛り上がるように工夫された大会内容は、「すごい」の一言につきると思いました。また、私たちのダンスが「ゲスト賞」を頂いたことも良い思い出です。この年次大会は、私の中に強いインパクトを残しました。

この研修で見たこと、聞いたこと、感じたこと、出会い、すべてが私の財産です。この研修は私の視野を広げ、韓国と日本のインターアクターたちとのきずなを強くしてくれました。今後もこの研修で得たものを大切にしていきたいと思えます。最後に、ロータリーの方々をはじめ、この研修に関係して下さった皆様には、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



飛騨高山高等学校 インターアクトクラブ 副部長 山本 安娜さん

今回の韓国3600地区インターアクト訪問研修にご参加させていただき、ありがとうございます。緊張した反面、とても嬉しく思いました。

韓国に行く前に韓国語を勉強したのですが、とても緊張していて、きちんと話せるか不安でした。特に、私は積極的に話しかける性格ではないので尚更でした。ホームステイ先の方を待っている間も「自分はしっかり話せるだろうか」ということがずっと頭にありました。その不安を抱えたまま、ホームステイ先の家族の方と対面しました。私が韓国語を話せずにいる中、ホームステイ先の子が日本語と英語で話しかけてきてくれまし

た。驚いたと同時に感心し、私も積極的に話しかけなければいけないと思いました。日本では答えに困ると曖昧に笑ってごまかしたりします。しかし韓国でははっきり言わないと全て「はい」という返事になってしまうという話を事前に聞きました。今まで、私は物事に関してはっきりと答えることが苦手でしたが、このことを思い出して意識してみると、きちんと自分の意思を伝えることができました。これは私にとって大きな進歩でした。

ホームステイ先の方々はとても優しくして下さり、行きたい場所へたくさん連れて行って下さいました。中でも心に残った場所は韓国の博物館です。その博物館では、韓国の歴史について学ぶことができました。ホームステイ先の子が英語を使って説明してくれたので、よく分かりました。韓国についての知識が増えると同時に、とてもフレンドリーで初対面でもたくさん話しかけてくれると韓国の方の良さを見つけることができたことを嬉しく思いました。また、韓国だけではなく、日本の良いところも同時に気づくことができました。日本人の公共交通機関は時間に正確です。おかげでとても便利に生活をおくることができます。今まで当たり前だと思っていましたが、この当たり前にも感謝しなければならぬと思いました。

今回の韓国派遣は、多くのものを得ることができ、大変すばらしい経験になりました。この派遣を通して学んだことをこれからの生活に生かすとともに、またこのような機会があった時には、今回のように自分の成長につながるように前向きに取り組みたいと思います。

最後にこの韓国派遣に関わった多くの方々にお礼申し上げます。このような貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。



飛騨高山高等学校 インターアクトクラブ 顧問 荒川 一弘 先生 第35回インターアクト年次大会 報告

I. 参加人数

7:30 高山駅出発 鈴鹿IC 11:30到着

例会報告

斐太高校 16名 (顧問1名 2日目のみロータリアン2名)
飛騨高山高校 18名 (ロータリアン1名 顧問1名)

II. ホスト校・スポンサークラブについて

ホスト校：三重県立飯野高校

英語コミュニケーション科、応用デザイン科(商業デザイン、服飾デザイン、コンピュータ・グラフィックス、美術)の4コース 各科2クラス、前12クラスの小規模校

平成19年～平成21年 セルハイ (Super English Language High School) ESS とボランティア部がインターアクト活動を推進している。

スポンサークラブ：鈴鹿ロータリークラブ 昭和39年設立
会員数53名 平均年齢61,86才

III. 会場について

鈴鹿医療科学大学 (白子キャンパス)

三重県に薬学部が存在しないために創設された大学 (薬学2年目) 電電公社の跡地 建設途中。会場費無料

IV. 鈴鹿市について

人口約 200,000 人の内 7,700 人の外国人が住んでいる。(約4%)

高山は外から来た人々に親切であるけど、閉鎖的であると感じる。一方、鈴鹿市は外国人が多いこともあり、多様な文化を受け入れることができるような寛容さがある。オーストラリアやニュージーランドのような多文化共生に成功している国と同じ雰囲気がある。

ホンダのお膝元であるために車産業が盛んである。しかしながらホンダ車少ない。ガソリンが高山よりも安いと感じた。(1リットルあたり128円)

V. 開会式について

テーマ：鈴鹿からはじめよう！ 多文化共生と global communication

多文化共生を十分に実感できる大会であった。外国人が実際に多く生活している地域での開催であり、ホスト校においても、多数の外国籍の生徒が年次大会の運営に関わっていることも様々な文化を日本にしながら体験できた大会であった。

来賓として、三重県知事・鈴木秀敬(えいけい)さんと鈴鹿市長・末松則子さんが挨拶をされました。

鈴木知事は現在37才で36才の時全国最年少知事として当選された大変有能な方である。若者は国の未来である。よって青少年育成のための行事には積極的に参加をすることを厭わないとおっしゃっていました。三重県は現在Active指数というテーマで、三重県の活性化を推進している。今回の大会が積極的行動的な大会になってほしいということ述べられた。

末松市長も大変お若く、ハツラツとしておられました。若い

方々がリーダーとして活躍されていることを羨ましく思いました。

日本語での韓国代表生徒挨拶の後、韓国学生全員が、ダンス・ギター演奏・合唱での「世界に一つだけの花」を披露してくださいました。

VI. 鈴鹿サーキットについて

本田宗一郎の鶴の一言で建設が決まった鈴鹿サーキットも今年で50周年を迎えた。8月4日はソーラーカー耐久レースのためコースには入れなかったが、普段は関係者以外立入禁止のパドック側に入ることができ、貴重な体験であった。岐阜県からは可児工業高校と中部日本自動車短大が参加していました。平均速度は時速95キロであり、ストレートスピードは時速150キロ近く出るそうです。実際に走っている車を観戦するとソーラーカーの進化に驚くばかりです。

約2時間の鈴鹿サーキットでの自由時間がありました。事前にサーキット内で飲食、アトラクション、買い物に使用出来る一人1000円の金券をもらい、十分に楽しむことができました。鈴鹿ロータリークラブ幹事の瀬尾さんが交流会で、一期一会の精神で、少しでも何か皆さんに喜んでもらおうと考えた。金券を配ることが出来れば、地元鈴鹿サーキットにも利益があり、インターアクターもお金に気兼ねなく鈴鹿サーキットを楽しむことができると考え金券を配ることにしたそうです。そのかわり、会場や食事会場である鈴鹿サーキットの部屋を無料にし会場費を浮かす努力をしたという話も聞きました。スポンサークラブとホスト校の方々のおもてなしの心をありがたく思いました。

VII. 交流会について

立食でのバイキング形式の夕食を取りながら、韓国派遣生徒や韓国学生、ロータリアン同士、顧問教師が食事を取りながら交流することができました。交流会をはじめの前に飯野高校インターアクト部の皆さんによるダンスパフォーマンスがあり会を盛り上げてくれました。

VIII. 宿舎について

鈴鹿少年自然の家(学校単位でしか入れないためにちょうど40名程度が入館不可能であったために、昨年年次大会を主催し、わざわざ遠いところから来てくれたということで、飛騨高山高校と斐太高校だけができて6年目のスポーツマンハウス鈴鹿という天然温泉付きの施設に宿泊することができました。プール・テニスコート21面・サッカー場4面・体育館を併設したスポーツ施設でした。スポーツ使用ならば2,500円で泊まれるそうで、スポーツや青少年育成にお金を使っている三重県は正しいお金の使い方をしていると感じました。

IX. 留学生報告について(第2日目大会)

メリノール女学院 エレン・ライターさん・関高校アイザック

例会報告

ク・スミスさんが公演してくれました。日本は授業中、しゃべることは厳禁だが、寝ることはOKみたいですね、日本の学校はダラダラと長いですね。オーストラリアでは、活発に討論をし、授業中に寝ることは許されない。ということが印象に残った話です。

X. 韓国派遣学生報告

川越高校 川北あや香さん・美濃加茂高校 大屋 遥さんが報告してくれました。日本では、静かに黙っていても、困ることはないが、韓国では、自分が何をしたいのかを表現しないと何もできない。そのおかげで、自分を変えることができ。人前で話すことも自信を持ってできるようになった。韓国に行ったら良かったという報告でした。

XI. アトラクション

吹奏楽部の演奏の後、服飾デザインコースの生徒によるファッションショーがありました。男子生徒もモデルとして登場し、なかなか堂に入ったもので感心しました。

XII. 英語落語について

林家 染太さん（正露丸の箱のなかに入っている人）が約1時間に渡り、教員免許状を活かすために大阪での塾の講師をしていた時の経験や森 喜朗首相・クリントン合衆国大統領の会話を枕に、ice creamとほうじの茶（magic tea leaves）という英語落語を得意の三線・南京玉すだれと共に実演後、インターアクターや韓国学生と一緒にうどんの食べ方や南京玉すだれを共演しとても楽しい講演であった。

XIII. 閉会式について

来年度の年次大会はホスト校として武義高等学校、スポンサークラブとして美濃ロータークラブが主催することが発表された。

<ニコニコボックス>

●折茂 謙一さん

本日は荒川先生、斎藤さん山本さん御苦労さまです。IA委員会韓国派遣、年次大会報告よろしくお願いします。

●米澤 久二さん

飛騨高山高校インターアクト部の顧問の荒川先生、斎藤さん山本さん、ようこそいらっしゃいました。本日は韓国派遣や年次大会の報告、楽しみにしています。

●垣内 秀文さん

荒川先生、斎藤さん山本さん、ようこそ！本日はインターアクト委員会担当例会です。よろしくお願いします。

●寺田 昌平さん

昨年度は荒川先生、インターアクトクラブ大変お世話になりました。

●内田 幸洋さん、

高山高校の荒川先生、斎藤さん山本さん、ようこそおいで下さいました。素晴らしいスピーチを期待しています。

●門前 庄次郎さん、堺 和信さん、鴻野 幸泰さん

荒川先生お元気でしたか？ご来訪を歓迎致します。

●田近 毅さん

先日、岐阜県教育会研修大会が高山で行われ、美鳩幼稚園の年長さん60名が、妻の花柳美鈴の指導で日本舞踊を踊りました。ヒットネットテレビで毎日放送されていますので見て下さい。

●岡田 賛三さん

5日から2012年飛騨高山くらしと家具の祭典を催しております。9日までやっております。世界文化センターへどうぞ御来場下さい。

●河尻 浩次さん

今月28日（金）夜10時から、ビートたけしと国分太一の司会番組「ニッポンのミカタ」で大垣共立銀行高山支店の移動店舗「スーパーひだ1号」が紹介されますので、皆さん是非ご覧下さい。チャンネルはぎふチャンネル（岐阜放送）です。よろしくお願ひします！

●古橋 直彦さん

7月末から夏休みを頂いていました。9月になりましたのでまた出席に心がけます。

●小林 勝一さん

天候が平常に戻り順調に菊が伸び始めました。今年も大臣賞ら向かって頑張ります。今日は早退いたします。よろしく。

●河渡 正暁さん

本日早退します。高山市教育委員会では「教育振興会議」という新しい会議が作られました。時代は変わっても形を変えて問題が起こってきています。陰険ないじめ、動物虐待など、人間性に類する事ばかりです。本日その会議に出席します。申し訳ありません。

● ● 一期一会 業界の変化 平 義孝 ● ●

● 山都印刷は昭和34年創業。当時は活版印刷が主流でした。●

● 時代の流れは早いもので石版印刷からオフセット印刷に、活字●

● から写植、そして電算と移り変わり、今ではコンピューターに●

● よる制作と大きく変化をしています。これも時代の流れ、大き●

● く変化する時代に企業が特徴を持ちながら、個性化、多様化が●

● 進み市場が細分化されて、印刷業の顧客のニーズも多種多様に●

● なって来ました。こうした環境の中で、印刷企業も開発に力を●

● 投じなければなりません。自社の技術を効率的にするために、●

● 戦略と活動を明確化することが印刷経営の根幹になってきま●

● した。新しい時代の印刷は各種業界の枠を超えた考えと変わっ●

● ていかなければなりません。IT情報化を進めながら、印刷業●

● だからこそ成し遂げる満足の提供をいかにプランニングして●

● いくか重要になって来ました。IT情報関連業界と融合を図り●

● デジタルとする他の産業と共に考え、情報と技術を創出し新し●

● い成長に向かっていきます。

奉仕を通じて平和を